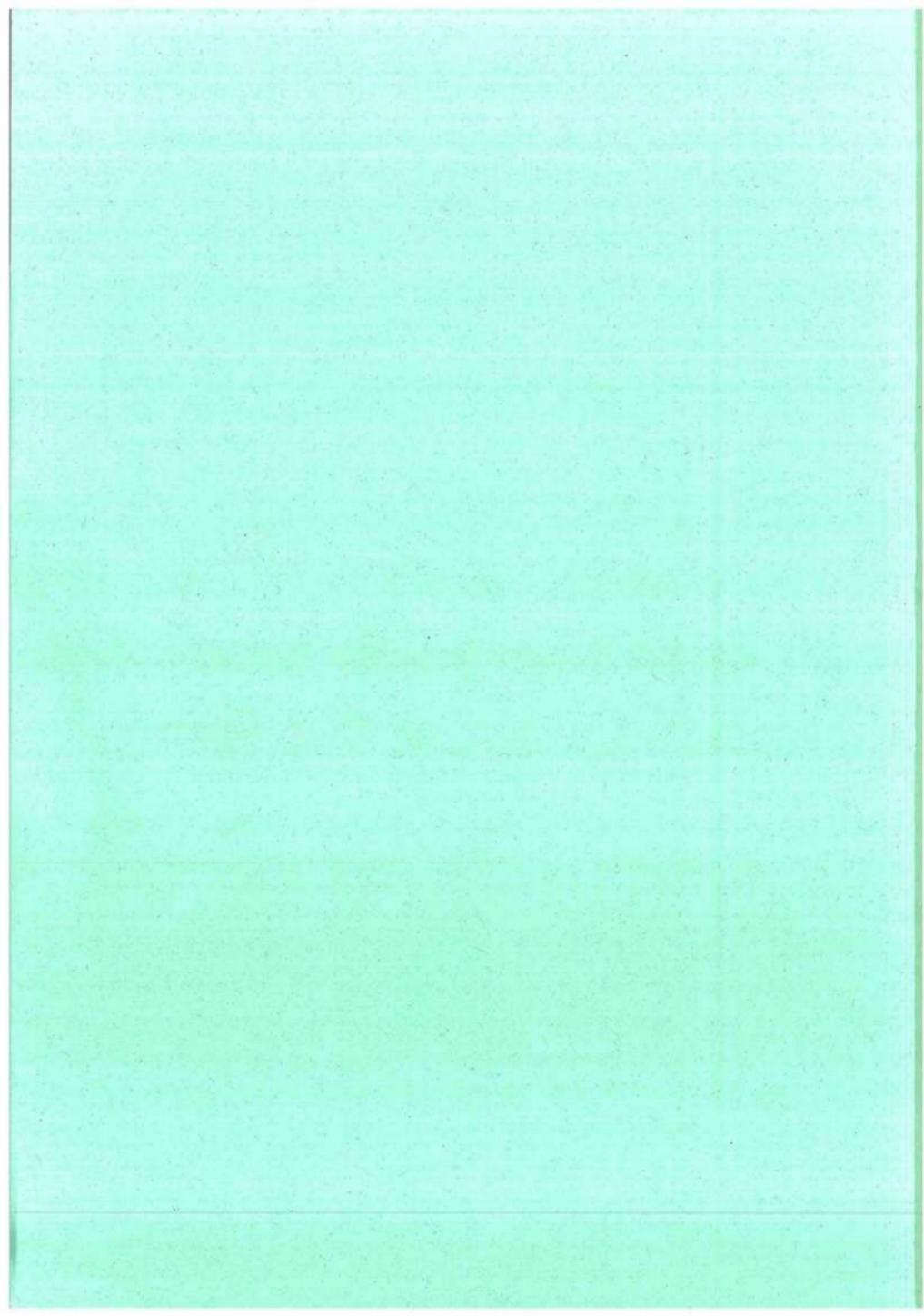


島本町立歴史文化資料館 館報第 11 号



令和元年 12 月

島本町立歴史文化資料館



## はじめに

京都・大阪という両都市のちょうど中間に位置し、東西の日本の歴史や文化を繋いできた町、島本町の歴史文化資料館の役割は、島本町の文化や歴史を後世に伝えていく上で大変重要なものだと思います。

平成30年度は「開館10周年」を迎えて、資料館内の展示内容の模様替えを行いました。

常設展では「ひと・もの・みち」をテーマに日本の歴史の中で、決して知名度の高くなない島本町から見た日本の歴史や文化、特に先人から受け継ぎ育んできた島本町独自の「文化」や「風土」、「生き方」を中心としてテーマ設定をしました。

また、企画展として桜井地区での発掘調査を「町内発掘調査成果速報展」として展示しました。秋の企画展では、「若山神社の文化財～本殿と絵馬～」と「水無瀬駒 関連資料」実物展示を行ったところ、来館者の皆様からご好評をいただきました。

講演会では、「島本町の豊かな文化財」というテーマで島本町文化財保護審議会会長の吉原 忠雄 氏にご講演いただきました。秋の企画展で展示した若山神社の文化財をより深く知っていただくために、「登録有形文化財若山神社本殿～その特徴と建築の経緯を探る～」というテーマで大阪府教育庁 文化財保護課 地村 邦夫 氏に、そして「絵馬を語る～考古学からみた絵馬の歴史～」というテーマで帝塚山大学教授 清水 昭博 氏にご講演いただきました。ご講演を聞かれた来館者の皆さんから、郷土島本町の文化財と若山神社の歴史・絵馬の歴史を深く、分かり易く学ぶことができたと高い評価をいただきました。

島本の神事展では、尺代・西光寺「報恩講」の展示や、「むかしのくらしと農家のしごと」というテーマで、民具・農具を展示しました。これには町内の小学生が社会科の勉強で、見学に来てくれました。普段でも町内の小学生や中学生の子ども達が、島本町の歴史を「もっと知りたい」「へえー島本町ってこんなところ、すごい！」といった感想も言っていました。

このように、島本町の歴史を老若男女問わず、興味深く楽しく学べる資料館をめざして職員一同、精一杯取り組んでおりますので、ご協力とご支援をお願いいたします。

令和元年 12月吉日

島本町立歴史文化資料館  
館長 三津井 清隆

## 目 次

はじめに	1
講演会	
「島本町の豊かな文化財」	講師 吉原 忠雄 氏 3
「登録有形文化財若山神社本殿～その特徴と建築の経緯を探る～」	講師 地村 邦夫 氏 5
「絵馬を語る～考古学からみた絵馬の歴史～」	講師 清水 昭博 氏 7
展示	
常設展「ひと・もの・みち」	9
歴史文化資料館「開館10周年」	9
企画展「町内発掘調査成果速報展」	10
秋の企画展「若山神社の文化財～本殿と絵馬～」	10
「水無瀬駒 関連資料」実物展示	11
島本の神事展「尺代・西光寺 報恩講」	11
企画展「むかしのくらしと農家のしごと」	11
体験講座	
「瓦ストラップ・マグネットを作つてみよう！」	12
『ジグソーパズル』で絵馬を学ぶ	12
資料館ボランティアの活動報告	12
事業報告	
企画展・催物一覧	13
公募による催物一覧	13
入館団体	14
日誌抄録	14
利用状況	15
寄贈・寄託	15
受入れ図書	16
町指定文化財一覧	18

## 講演会 「島本町の豊かな文化財」

平成 30 年 4 月 14 日（土）  
島本町文化財保護審議会会長  
吉原 忠雄 氏



「島本町の豊かな文化財」というタイトルをつけさせて頂きました。狭い地域ですが、町外に流出した文化財や未指定の文化財も含めると 41 点もあります。水無瀬離宮があったということで国宝が 2 つもあり質的にも量的にも豊かですので、島本町内の文化財を知って頂きたいと思います。

後鳥羽天皇と水無瀬離宮関係の文化財は登録文化財を含めて 15 件あり町指定の水無瀬駒も含めると 16 件です。後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮は別荘として使われていたのですが、1216 年に水害で流失し翌年に場所を移して再建しています。大変権力のあった後鳥羽上皇ですが、1221 年承久の乱により隠岐に流されました。その関係の絵画として国宝の「紙本著色後鳥羽天皇像」があります。京都神護寺の伝源頼朝像を描いたといわれる藤原隆信の息子の信実の作と言われています。

それから関連の書跡等として国宝の「後鳥羽天皇宸翰御手印置文」は、亡くなられるまで天皇の側で身の廻りの世話をしていた水無瀬信成、親成親子に自分の為の御影堂を建てるようにという遺言です。天皇自ら手形を押してあります。重文の「後鳥羽院御置文案文」は、嘉禎 3（1237）年、後鳥羽上皇が自分を弔うことを希望して水無瀬信成に宛てて出したものだと言われています。「後鳥羽院宸翰御消息」と「後村上天皇宸翰御願文」も重文で、重文 3 件と国宝 2 件のすべての国指定品は京都国立博物館へ寄託しています。

次は、重要美術品です。「後鳥羽天皇御四百回忌御法楽御短冊（後水尾天皇宸翰以下二十葉）」です。これは寛永 15（1638）年のもので、和歌を詠んだ短冊をアルバム状にしたものです。「後水尾天皇宸翰御懐紙」は、後鳥羽天皇の「見渡せば山もとかすむ水無瀬川、夕は秋と何思ひけん」という和歌を江戸初期の後水尾天皇が写したものです。「御歴代宸翰御法楽御短冊（後西天皇宸翰以下二十五葉）」は、法楽という神仮の前で詠んだ和歌を短冊にして奉納したものです。

次は建造物です。重文は 2 つで「水無瀬神宮客殿」は、桁行 11.8m、梁間 10.9m、という大変立派なものです。慶長 5（1600）年に後水尾天皇から下賜されたのではないかと言われています。「水無瀬神宮茶室」は、こけら葺で、桁行 7.6m、梁間 5.2m の平屋の寄棟造になっています。格天井で江戸時代のものです。以下、水無瀬神宮の登録文化財です。「水無瀬神宮本殿」は木造の平屋で銅板葺、建築面積 89 m<sup>2</sup>、寛永年間に御所の建物を移築したものです。「水無瀬神宮拝殿及び幣殿」は平屋で銅板葺、建築面積が 149 m<sup>2</sup>で、昭和 4（1929）年に建てられました。「水無瀬神宮神庫」は大正のもので、土蔵造、2 階建て、瓦葺き、建築面積 24 m<sup>2</sup>の小さなものです。「水無瀬神宮手水舎」は屋根が大変立派で、木造、瓦葺、建築面積 5.5 m<sup>2</sup>、手水鉢付、大正のものです。「水無瀬神宮神門及び築地塀」は、木造、間口 2.8m、築地塀は瓦葺で総延長 5 m。北方に潜戸が付いています。江戸前期のもので、離宮の跡地にふさわしい格式を持ってていると評価されているようです。

その他の国指定・登録文化財です。史跡「桜井駿跡（楠正成伝説地）」は、湊川へ出陣する楠木正成が、同行を願う正行をいさめて帰したと言われている所で、国の史跡で「島本町立歴史文化資

料館（旧麗天館）」は、桁行 11 間で約 25m、梁間 15m、入母屋造、棟瓦葺で表階付きです。「若山神社本殿」は、ご祭神は素盞鳴尊の牛頭天王を祀っておられ、建物自体は江戸のものです。

次に大阪府指定文化財を紹介します。建造物では「関大明神社本殿」、慶長 10（1605）年から文化 6（1809）年まで度々修理を行い、その棟札が 12 枚残っております、大変珍しいです。有形民俗文化財では、「若山神社『東大寺村おかげ踊図絵馬』」があります。江戸のものです。また、町内の天然記念物として、「大沢のすげ」、「尺代のやまもも」、「若山神社のツブライジ林」があります。

次は島本町指定文化財を紹介します。全国的に有名な歴史資料の「水無瀬駒」は安土桃山に水無瀬兼成が作りました。駒は後陽成天皇や足利義昭、豊臣秀次、徳川家康などに納めたようです。納め先を書いた「持葉馬日記」と「象戲圖」も関連資料として町の指定文化財第 1 号になりました。

第 2 号は彫刻の「神像（伝 聖德太子七歳像）」です。一木造りで、10 世紀の初めの頃のものです。第 3 号は、桜井にある宝城庵という禅宗のお寺の「薬師如来立像」です。像高が 96.5cm、檜の一木造りで古い構造しております、彩色仕上げで典型的な平安後期のスタイルです。第 4 号は、山崎の「勝幡寺 薬師如来立像」です。基本は平安後期スタイルで、けど衣のきざみかたが固い感じになっているところから鎌倉に入るとみられます。次は、「勝幡寺 元三大師みくじ関係資料一式」です。おみくじは天台宗の中興の祖といわれてる良源（元三大師）が始めたといわれています。このおみくじの版木とみくじ竹、みくじ箱、札を納めるみくじ算筒がほぼ一式揃った大変貴重なもので、町の有形民俗文化財第 1 号に指定されました。それから考古資料として「須恵器 大甕」があります。ほぼ完形で大変珍しいものです。桂川と宇治川の合流地点に近い所で見つけられました。山崎辺りに港があり、こういう大きなものを船で運んだ証拠になることを示す資料です。次は有形民俗文化財で「若山神社 絵馬」4 面、狩野派系統の絵です。作者もいつ描かれたかもわかっています。

次に未指定文化財です。「後鳥羽天皇画像（法体）」水無瀬神宮にあります。これは私も写真でしか知りません。次の「愛染明王坐像」は、鎌倉のものです。後鳥羽上皇が忿持仏にして持つておられたものだと思います。次に古文書として、「水無瀬神宮文書」があります。これは中世近世合わせてある程度の数があり有力な指定候補となっています。町内の旧家はたくさん古文書をお持ちです。将来的には指定になっていくだろうと思います。そして、「水無瀬離宮関係遺跡」や「遺跡出土品」があります。彫刻では地蔵院の「地蔵菩薩立像」があります。像高 264 cm の大きなお地蔵さんです。鎌倉中期頃のもので寄木造りです。これも間違いなく指定になるものです。

それから、町内から出てしまったのですけど優秀な仏像があります。廃寺となった西觀音寺（現椎尾神社）の「閻魔王坐像」、「五道太神」、「太山府君」、「司命」、「司錄」です。鎌倉前期のもので、現在は大山崎町の宝積寺にあり、重文になっています。もうひとつは、廃寺になった釈迦院の本尊の「十一面觀音像」です。10 世紀後半ごろのもので、今は高槻市の靈松寺に移ってしまいました。

これで全部を紹介しました。終わりに、大阪市内に国宝が 35 件、大部分がコレクションです。大阪府内で国宝が 60 件あります。摂津国では、四天王寺に 6 つ、箕面市に 1 つ、高槻市に 1 つあります。それから茨木市の法人が刀を 2 つ持っています。ですから、島本町内にゆかりの国宝が 2 つあるということは、これは大変意義があることだと思います。まだまだ指定になるようなものがあるんだということを理解して頂きたいと思います。量的にも質的にも島本町は文化財の豊かな所です。ですからもともと住んでおられた方も、新しくこちらに越してこられた方も是非本物をたくさん見て頂いて楽しんで頂ければというふうに思います。ご静聴ありがとうございました。

## 講演会「登録有形文化財若山神社本殿

### ～その特徴と建築の経緯を探る～」

平成 30 年 10 月 14 日（日）

大阪府教育庁文化財保護課

地村 邦夫 氏



若山神社は、若山と呼ばれる山の中腹にご鎮座されている神社で、この辺り一帯の氏神様です。境内から見渡すと、北河内はもとより中河内や京都府の南部まで広く見渡すことができる、すばらしく景色のいいところです。本殿でお祀りされている神様は素戔鳴尊です。境内には本殿以外にもいくつも社殿があり、全体で若山神社を構成しています。

若山神社は江戸時代末まで「西八王子社」と呼ばれていました。戦国時代や江戸時代の古文書には西八王子社と記されています。また、江戸時代の書物には「広瀬神祠」と書かれているものもあります。「若山神社」と改称したのは明治時代のことでした。こうした神社の歴史を詳しくまとめている書物が『若山神社史』です。若山神社に伝えられた古文書を整理し、神社の歴史を明らかにされた労作であり、水無瀬地域の歴史を解き明かす上でも貴重な書物です。

さて、若山神社の創建と由緒ですが、文武天皇治世の大宝元（701）年に牛頭天王が僧行基に神がかかりし、その宣託により牛頭天王を祀ったのが始まりだと伝えられています。牛頭天王は素戔鳴尊と同一視される神で、本来の姿は薬師如来だと言われています。少しややこしいのですが、江戸時代までは「神仏習合」といって神道と仏教は密接に結びついていました。境内の奥にある神輿庫は、元は薬師堂で、仏教と神道が密接であった時代の名残ということができます。

神社に付属し、神社を管理しているお寺を「別当寺」と言います。若山神社の別当寺は、戦国時代末期まで勝幡寺が務めていましたが、江戸時代からは松泉坊に交代しました。元禄 5（1692）年の「西八王子社明細書上ヶ」という古文書には、「昔から松泉坊が若山神社の事を取り仕切ってきた。神主などはおらず、氏子が宮座をつくり、神社の維持に勤めてきた」ということが書かれています。松泉坊については「天台宗正覺寺の末寺である」とあり、さらに京都所司代を歴任した板倉勝重より社領等を安堵されたことや、境内の広さや建物のことも書かれています。その約 100 年後、天明 3（1783）年の「寺社分限御改書上帳面」には、別当の屋敷や土地の広さ、境内は除地（税金が免除された土地）で、京都所司代から保証されたものだということや、松泉坊がいつ開かれたお寺かはよくわからないと書いてあります。このように古文書からは当時の若山神社とそれを支配していた松泉坊について具体的に知ることができます。

また、江戸時代から明治時代にかけて、社殿や境内の様子がわかる史料が残されています。「西八王子社氏地絵図」という貞享 2（1685）年に描かれた絵図を見ると、境内の建物自体は建て替わっていますが、建物の配置は現在もよく踏襲されていることがわかります。先に取り上げた「西八王子社明細書上ヶ」や「若山神社明細帳」などの史料に記された境内の建物の記録ともほぼ一致しています。また、享保 20（1735）年の『摂津志』や、寛政 8～10（1796～1798）年の『摂津名所図会』といった書物にも「広瀬神祠」という名称で若山神社のことが記されています。これはやはり、

若山神社がこの地域の代表的な神社として認識されていたからだと思います。

では次に若山神社本殿の建築を見てていきましょう。本殿は、三間社流造です。屋根は、今は銅板葺ですが、元は檜皮葺でした。特徴的なのは正面中央の唐破風です。普通の唐破風は屋根の手前にちょこんと付いているのですが、ここの唐破風は手前に大きく突き出した堂々たるもので。こういう唐破風は「向唐破風」といい、大阪府内では非常に珍しいものです。彫刻も非常に凝っています。ではこの本殿はいつ建てられたものなのでしょうか。我々が建築年代を判断する際、一番ありがたいのは、建築年代が記された棟札や普請文書が残っていることです。棟札はなくとも外から見えないところに大工が建築した年を書いてくれていることもあります。しかし書かれたものを読みみにすることはできません。建築の時代ごとの特徴を見極め、それを棟札や普請文書に記された建築年代と照らし合わせて確認する必要があります。若山神社本殿には、棟札と旧記の写しがあり、文化4（1807）年4月17日と書かれています。建物の特徴も江戸時代後期の物ですので矛盾はありません。こうして文化4年に建った貴重な社殿であると認められ、登録有形文化財として登録されたわけです。

最後に、本殿建築の経緯が分かる史料が残っているのでお話をしたいと思います。江戸時代の建築の手続きは、①大坂町奉行所に建築願を出して、奉行所の担当者が確認。②地域の大工組（大工の組織）によるチェックで、大工組頭の添手形をもらう。③大坂大工組代表者である大工年寄に書類を持っていき、裏書を書いてもらう。④それを再び奉行所に提出し、正式に認可を受ける。という手続きが必要でした。若山神社の再建・改修にあたっては、文化2（1805）年10月13日、松泉坊名義の建築願を大工の佐平が奉行所に提出し許しを得ますが、大坂大工年寄の野里屋久右衛門の所に書類を持っていったところ、大工組頭の添手形がなかったので断られました。そこで、佐平は久右衛門に、「自分はどこの大工組にも属していないので組頭から手形を貰えず、提出することができませんが、久右衛門さんには迷惑を掛けません」という書類を提出し、どうにか認めてもらい、2年後に本殿の再建を果たしました。若山神社の棟札には「大工棟梁 栗辻佐兵衛」と書かれています、字は違いますが、これが再建の手続きをおこなった「佐平」であることは間違いないでしょう。また佐平が17人の大工を従えて本殿の改築作業に関わったということも記されています。建築の申請から完成までの流れが大変よくおわかりいただけると思います。

そしてもうひとつ、神社には「御宮修覆二付、後代心得之覚并定書」という興味深い史料が残されています。実は若山神社本殿の特徴である“向唐破風”は、地元の強い要望で付けられたのですが、本当は作ってはいけないものでした。ではなぜ認められたのでしょうか。この史料には「もともと本殿に唐破風はなかったのだが、元からあったものを修復するということで今回限り奉行所が認めてくれた」と書かれています。また「今後建て替える時にも、修理として願い出ればいい」ともあります。つまり、その事をみんなよく心得て、この立派なお社を今後も守っていきなさい、という引継書なのです。地元のたくましさ、奉行所の柔軟な対応など、とても興味深いものです。

若山神社本殿の建築の素晴らしいだけでなく、当時の建築手続きや、そこに見える人間模様が伺える史料が今も残されているということは、若山神社の歴史的な価値をさらに高めていると思います。今回、若山神社本殿が国の登録有形文化財として認められたことを私自身も大変嬉しく思っておりますし、地元の方もこの素晴らしい社殿を残していく為に、引き続き尽力していただけたらと思います。どうもありがとうございました。

## 講演会「絵馬を語る

### ～考古学からみた絵馬の歴史～」

平成 30 年 10 月 28 日（日）

帝塚山大学教授

清水 昭博 氏



今日の講演は絵馬の話をさせていただきます。馬と人は古代から非常に深い関係にあり、やがて馬に願いを掛けるという考えができました。そうした考えのもとでできたものの代表的なものが絵馬であります。この度、島本町若山神社の絵馬が町指定文化財となったことと関連し、絵馬のルーツをポイントにしてお話をさせていただきます。

まず、少し変わった現代絵馬をご紹介します。奈良薬師寺の絵馬は、馬ではなく「心」という文字が書かれていますし、春日大社のハート型絵馬や、アニメのキャラクターを描いている絵馬があります。神奈川県要石神社の絵馬は、キセルに縫がついている絵が描かれていて、禁煙の願いが込められています。このように現代、絵馬に色々な決意や願掛けをして奉納します。

さらに時代を遡ってみると、江戸時代には馬や神仏の像、祭具や祈願者の礼拝像など色々なデザインの絵馬が奉納されています。島本町指定文化財の若山神社「曳馬図絵馬 1」は 86 cm × 134.5 cm でかなり大きい絵馬です。天明 6 (1786) 年という年号と作者の名前も書かれています。中央の黒い馬の両側に手綱を持つ人物が描かれ、板全体に馬を描いています。他に黒い馬に猿が乗っている「猿猴乗馬図絵馬」と、男 2 人が馬をひっぱっている「曳馬図絵馬 2」があります。また、「竹虎図絵馬」は直径 80cm の珍しい円形の絵馬です。江戸時代の絵馬は大型化していて、絵馬を奉納した人物の名前や年号が書かれている特徴が、現在の絵馬に通じると言えます。

続いて、中世の絵馬です。奈良県葛城市的当麻寺曼茶羅堂からみつかった絵馬には馬と馬曳きの顔が描かれていて、若山神社のような絵馬のルーツが室町時代初期まで遡る事がわかります。秋篠寺の絵馬には馬が描かれていて、古くなるほど画題が馬に集約されてくることがうかがえます。

次に、絵画史料からみて、絵馬の歴史が平安時代まで遡ることができます。平安時代後期に描かれた『当麻寺年中行事絵巻』の本殿の柱には絵馬が飾られていて、絵馬を神社に奉納していたことがわかります。鎌倉時代に描かれた『一遍上人絵伝』の中には、築地の壁の上に絵馬が描かれています。この絵馬は 2 枚 1 セットで、赤や緑の着色がされていて、若山神社の絵馬に通じる色付きの絵馬が鎌倉時代にあったことを示しています。室町時代の『墓帰絵詞』は、ご神木の前に跪いた僧と貴族の男性が祈りを捧げている絵で、木の枝にたくさんの絵馬が 2 フロアでかけられています。絵馬を 2 フロアにする場合が多かった事がわかります。

つぎに、発掘で出土した絵馬を紹介します。全国ではたくさんの遺跡の発掘調査が行われていますが、絵馬は全国で約 100 点しか見つかってない、非常に珍しい遺物です。まずは、奈良時代の平城宮二条大路から見つかった絵馬です。ここは藤原不比等の息子の藤原麻呂が住んでいた場所で、絵馬と一緒に天平 9 (737) 年頃の木簡がみつかっています。大きさは、横が 27.2 cm 、縦が 19.6 cm です。蛍光 X 線分析により実際は美しく色付けされていた事がわかっています。馬の足も頭も木の

板いっぱいに描かれていますが、尻尾が欠けて描かれています。統いて、奈良市の日笠フシンダ遺跡から見つかった絵馬は、赤外線を通すと、馬の顔の表情や筋肉、尻尾や鞍の表現もはっきりと見えて、色も復元できました。大きさは二条大路の絵馬と同じです。先程と同じく、尻尾は欠けていて、さらにたてがみも欠けています。また、大阪の加美遺跡から出た絵馬の馬は右向きと左向きがあり、中世の絵画に見られた2つをセットで使う例が、古代にもあったことを示しています。

統いて、大阪四條畷市の讃良郡条里遺跡から出てきた絵馬には神馬と書いてあり、神に奉ずる馬だと考えられていたことがわかります。また、奈良時代に役所があった静岡県の伊場遺跡からも絵馬が見つかっています。同じく、静岡県の神明原元宮川遺跡から出た絵馬は、小ぶりで馬が墨書きされていて、僧が馬を曳いている姿が若山神社の絵馬と同じです。

近畿地方から離れた例では、秋田県の払田柵跡の絵馬があります。頭の部分が欠けているところが平城宮で出土した絵馬と同じです。島根県の青木遺跡の絵馬も役所に関係した場所から出てきています。このように平城宮を中心とした大和、河内、摂津以外の、離れた地方からも絵馬が出土していて、役所から出土している所が絵馬の性格を表していると思います。以上、現在から奈良時代までの絵馬を遡ってお話をしました。

次に絵馬が考古学の解釈でどう理解できるのかを説明します。絵馬の役割は、祈雨と除災がありますが、最初の役割は、災いを除く為に作られたと考えています。平城宮の内裏周辺の排水溝から絵馬が出土したことから、恐らく何らかの災いを除くための儀式や祀りをしてから溝に捨てたと思われます。つまり内裏にいる天皇や天皇家の人々の為に絵馬が使われました。また、平城京二条大路の道から出てきた絵馬も、藤原麻呂邸の外側に捨てたもので、災いを防ぐ目的で絵馬が使われ、魔棄したと考えられます。統いて、平城京のすぐ外側にある大和郡山市の中田遺跡から出土した絵馬は、平城京を災いから防ぐために使われたと思います。そこで興味深いのが日笠フシンダ遺跡です。ここは大和と伊賀の境界で、ここで絵馬を使って大和に災いが入るのを防いだのでしょうか。日笠フシンダ遺跡からは絵馬以外に祭祀遺物の1つである土馬がたくさん出ています。土馬も災いを防ぐ道具として使われたと考えられます。平城京を発掘すると、色々な祭祀遺物が出ます。そうした祭祀遺物の中で、絵馬も土馬と同じく、馬形として位置付けられます。絵馬が誕生する以前、馬形は土や木で作りました。藤原京を掘るとたくさん土馬が出土します。当時の人は災いを馬に乗せて別の世界に送ろうと考えました。ほとんどの発掘で出てくる土馬は、足や首が欠けています。絵馬にも尻尾やたてがみが欠けているものもありましたが、いずれも災いが現実の世界へ戻ってこないように、馬の身体の一部を欠如させたのではないかと考えられます。

最後に、絵馬が誕生した背景をお話します。現在のところ、一番古い絵馬は、天平9年の平城京二条大路の絵馬です。それにつづるのが日笠フシンダ遺跡の絵馬で、天平10(738)年の木簡と一緒に出土しています。おそらく天平10年に遺跡周辺で陰陽博士が除災に關わる祭祀をしたようです。『続日本紀』によると、天平9年には全国的に干ばつがあり、天然痘が流行しました。絵馬の出土場所が平城宮周辺や平城京や大和國の境界であることから、絵馬は都への天然痘を防ぐ目的で創作された祭祀具であったと考えられます。現在、絵馬は様々な人々の願いを叶える道具ですが、歴史を遡ると天平9年に突き当たります。その時に、大規模な災いから防ぐ道具として作られたものが絵馬だと思う次第です。今回は若山神社の絵馬の起源に関連し、発掘で見つかった絵馬を中心にお話をさせていただきました。ご静聴どうもありがとうございました。

## 展示

### 常設展 「ひと・もの・みち」

島本町は、大阪府と京都府の境に位置し、桂川、宇治川、木津川の三川が合流する地にあります。町の中心を西国街道が通り、古来水陸の交通の要衝として栄えてきました。

その街道沿い国史跡桜井駅跡の南側、JR島本駅のすぐ東側に当資料館があります。

写真は、「ちょっと昔に使われた生活用品」展として、昭和初期の裁縫道具を展示したものです。

裁縫道具は、町内の方々から寄贈していただいたものを展示しました。



開館時間 午前9時30分～午後5時

休館日 毎週月曜日（祝日の時は開館し、翌日に休館）

12月29日～1月3日 その他臨時に開館・休館する場合があります。

入館料 無料



### 歴史文化資料館 「開館10周年」

展示期間：平成30年4月10日（火）～7月1日（日）

資料館は、平成30年度で開館10周年を迎えました。そこで、展示内容はこれまでにも少しづつ変更してきましたが、開館10周年を記念して大きく展示替えを行いました。

島本町は、奈良時代には東大寺の荘園が営まれ、平安時代から鎌倉時代には複数の離宮が築かれました。

山城国と攝津国の国境に位置し、江戸時代以前も両地域の多様な文化を受容することで、豊かな文化を育んできました。近年、発掘調査が増え、文献には見当たらぬ歴史も明らかになり、調査の成果を基に、発掘で出土した遺物を紹介しています。

また島本町文化財保護審議会会長の吉原忠雄氏を迎えて講演会を実施し、町内に点在する文化財を詳しく紹介していただきました。当館職員により新たな展示品の解説と紹介も行いました。



## 企画展 「町内発掘調査成果速報展」

展示期間：平成 30 年 7 月 4 日（水）～ 8 月 5 日（日）

平成 29 年度は、山崎地区 1 件、桜井地区 2 件、広瀬遺跡 1 件、若山台地区 1 件、百山地区 1 件の計 6 件の調査を実施し、特に遺構や遺物が見つかった桜井地区の 2 件の試掘調査を紹介しました。

1 件は桜井遺跡内の調査であり、近世の土坑や宅地造成の痕跡を確認することができました。

もう 1 件は埋蔵文化財包蔵地外で行った調査ですが、縄文時代から近世の遺物を確認したため、新しい埋蔵文化財包蔵地「尾山遺跡」として認定されました。

平成 30 年度の「町内発掘調査成果速報展」では、2 件の調査で見つかった縄文時代～近世の遺物を展示了しました。



## 秋の企画展 「若山神社の文化財～本殿と絵馬～」

展示期間：平成 30 年 10 月 11 日（木）～ 12 月 2 日（日）

平成 30 年 1 月 15 日に町指定文化財第 7 号に「若山神社 絵馬」4 面が指定され、同年 3 月 27 日には、「若山神社本殿」が国登録有形文化財に正式登録されました。

これらを記念して、秋の企画展を開催しました。

町指定文化財となった絵馬 4 面に加えて、府指定文化財で「若山神社『東大寺村おかげ踊図絵馬』」1 点の併せて 5 面の写真パネル展示と、それぞれの絵馬の詳細解説を行い、加えて国登録有形文化財に登録された「本殿」の写真パネル展示と解説を行いました。

期間中には、国登録有形文化財に正式登録されたことを記念し、若山神社で「登録プレート除幕式」を行い、普段は観ることができない貴重な文化財を「若山神社の文化財現地一般公開」と題して、目の前で実物の絵馬を観ることができる機会を設けました。

展示期間中は 2 回の講演会を開催し、また、来館者を対象とした体験講座「『ジグソーパズル』で絵馬を学ぶ」も実施しました。



## 「水無瀬駒 関連資料」実物展示

展示期間：平成 30 年 11 月 3 日（土・祝）・4 日（日）

本町の文化祭開催に併せて、実物展示を行いました。

「小将棋（八十二才銘）」漆書、「中将棋（八十六才銘）」墨書と中将棋の棋譜を紹介した「中将棋全集」を展示しました。



## 島本の神事展 「尺代・西光寺 報恩講」

展示期間：平成 30 年 12 月 5 日（水）～ 1 月 27 日（日）

本町の北部に位置します尺代・西光寺の行事「報恩講」の写真パネルを展示しました。

「報恩講」とは、仏教各宗派で毎年宗祖への報恩のために當む法会のこと、年間行事の中でも最大なものです。別に御正忌、お七夜などとも呼ばれています。

西光寺でも毎年「報恩講」が當まれ、参列者全員で念佛を唱えた後、ご住職の布教を伺いました。



## 企画展 「むかしのくらしと農家のしごと」

展示期間：平成 31 年 1 月 30 日（水）～ 3 月 3 日（日）

冬期恒例の展示となりました本展は、昔使われていた民具や農具を展示し、むかしのくらしと農業について紹介しました。

社会科の体験学習に町内 4 校の小学 3 年生が今年も訪れ、熱心に見学をしていました。初めての縄ない機や足踏みミシンなどを体験し、楽しそうな様子が伺えました。

また、昔を懐かしまれる大人の方も多く来館されました。



## 体験講座 「瓦ストラップ・マグネットを作つてみよう！」

日程：平成 30 年 7 月 25 日（水）・26 日（木）

広瀬遺跡では、土器以外にも水無瀬離宮で使用されたと考えられる瓦が出土しました。この瓦の文様の范型と石粉粘土、ストラップ金具、磁石等を使用して、瓦の文様のストラップとマグネット作りをしました。

子どもたちは暑い中、楽しそうに瓦の文様に思い思いの色を付けて、ストラップやマグネットを作成していました。



## 体験講座 「『ジクソーパズル』で絵馬を学ぶ」

日程：平成 30 年 10 月 20 日（土）

平成 30 年 1 月 15 日に町指定文化財第 7 号に「若山神社 絵馬」4 面が指定されました。

町指定文化財への指定を記念して、「曳馬図絵馬 1」の図柄を好きな形に切って、オリジナルのパズルを作成する体験講座を実施しました。また、実物大に作成した「曳馬図絵馬 1」のパズルを楽しみながら、絵馬を学びました。



## 資料館ボランティアの活動報告

1 期、2 期のみなさんと資料館担当職員で毎月一回の定例会を開催しています。

資料館内外で企画される活動に参加・協力いただき、特に団体予約で説明を希望される来館者への解説や、対応をさせていただいています。

また、30 年度は「瓦ストラップ・マグネットを作つてみよう！」や「『ジクソーパズル』で絵馬を学ぶ」の体験講座、「むかしのくらしと農家のしごと」展の体験学習コーナーに協力していただきました。



## 事業報告

### 企画展・催物一覧

開催日	企画展名
平成30年4月10日(火)～7月1日(日)	歴史文化資料館「開館10周年」
平成30年7月4日(水)～8月5日(日)	企画展「町内発掘調査成果連報展」
平成30年10月11日(木)～12月2日(日)	秋の企画展「若山神社の文化財～本殿と狛馬～」
平成30年11月3日(土・祝)・11月4日(日)	「水無瀬駒 関連資料」実物展示
平成30年12月5日(水)～平成31年1月27日(日)	島本の神事展「尺代・西光寺 報恩講」
平成31年1月30日(水)～3月3日(日)	企画展「むかしのくらしと農家のしごと」

開催日	催物
平成30年4月14日(土)	講演会「島本町の豊かな文化財」吉原忠雄氏
平成30年4月15日(日)	第75回コンサート「女声合唱団JyoJyo～母への想いを胸に～」
平成30年5月27日(日)	第76回コンサート「チエロとピアノのコンサートvol.3」
平成30年7月25日(水)・7月26日(木)	体験講座「瓦ストラップ・マグネットを作ってみよう！」
平成30年10月14日(日)	講演会「豊録有形文化財者山神社本殿～その特徴と建築の経緯を探る～」地村邦夫氏
平成30年10月20日(土)	体験講座「『ジグソーパズル』で駄馬を学ぶ」
平成30年10月21日(日)	第77回コンサート「松永昌子ピアノで繰る旅シリーズPartV～ドイツ3大B～」
平成30年10月28日(日)	講演会「駄馬を語る～考古学からみた駄馬の歴史～」清水昭博氏
平成30年11月11日(日)	第78回コンサート「～蘿原清彦リコーダー リサイタル～ 美器の原点。リコーダー/宫廷の華・チェンバロの演奏を通して宮廷の森パロック音楽を聴く」
平成30年11月18日(日)	第79回コンサート「福井英里子ヴァイオリンリサイタルVOL.4～ロマンティックな名曲を奏めて～」
平成31年3月24日(日)	第80回コンサート「原田泰彦&吉久夏子デュオリサイタル～移りゆく四季への想い～」

### 公募による催物一覧

開催日	内容
平成30年4月22日(日)	「島本音楽フェスティバル」商工会青年部・にぎわい創造課
平成30年4月26日(木)	「童謡クラブ・歌声さん」
平成30年5月15日(火)	「童謡クラブ」
平成30年5月20日(日)	「ガールスカウト大阪府第90団」
平成30年6月2日(土)	「講談」島本町社会福祉協議会ボランティアセンター
平成30年6月26日(火)	「詩吟発表会」直心・育黎吟詩会
平成30年7月1日(日)	「日本ボーイスカウト島本第1団」
平成30年7月3日(火)～7月8日(日)	「七夕飾り」島本竹工房
平成30年8月18日(土)	「かぐや姫のタペ：竹のオブジェ展示」島本竹工房
平成30年10月16日(火)	「童謡クラブ」
平成30年10月27日(土)	「童謡クラブ・歌声さん」
平成30年4月～平成31年3月 毎週火・木・土曜日	「朝市」島本町農業振興団体協議会

## 入館団体

## 日誌抄録

平成30年度（2018）		
4月18日	まるく会（堺・河内長野市等） 三木会（大阪府）	5団体
4月25日	新規採用職員説見学（島本町） 記・紀・万葉を歩く会（西宮）	
4月26日	因幡板橋正行の会（因幡板橋市）	
5月 3日	京都百人一首・かるた研究会（京都）	
5月 9日	歩みの会（大阪市）	
5月13日	かわなすクラブ（京都）	
5月19日	新日本歌人会（高麗文部（高麗市）	
5月28日	（有）丹生新聞社（高槻市）	5団体
6月 7日	京阪電鉄8000	
6月10日	長野県ふらさとガイドの会（長岡京市）	
6月13日	高齡者大学 中世の会	
6月24日	大阪高齡者大学歴史樹講歩くクラブ（大阪市）	4団体
7月10日	フランクワートホームステイ施設見学	
7月25日	てくてく会（滋賀県）	3団体
7月29日	旅企画（大阪市）	
8月18日	遊書会（神戸市）	
8月20日	町村教育委員会連絡協議会夏季研修	
8月26日	西宮街道ウォーク 山陽新聞 第14回 日本の歴史文化研究会	4団体
9月12日	春喜堂（富田林市）	
9月16日	奈良京都研究所会（大山崎町）	
9月21日	オーブの実	
9月22日	旅歌漫遊くらら（京都・大阪・奈良・等）	4団体
10月 3日	高齢者大学 歴史中世科	
10月 5日	歴史クラブ（吹田市）	
10月11日	大阪北部コミュニティカレッジ	
10月18日	島本町初任者教員研修（島本町）	
10月25日	川西市高齢者学年りんどう空間こはせ学科	5団体
11月 6日	ORCC中世教室（茨木市）	
11月 7日	旅宿ハイタッチミリー	
11月 8日	京都百人一首・かるた研究会	
11月10日	西日本鉄道OB会高麗支部ハイキング同好会 古志跡句会	
11月14日	万葉をよむ会（川西市）	6団体
12月 1日	前川ゼミ（大阪）	
12月13日	海老名高校 地域交流（島本町）	
12月15日	三才会（神戸市）	3団体
1月24日	阪急京都沿線観光あるき	
1月27日	ほろよい乾物仲間（大阪）	2団体
2月 1日	高槻小学校休憩学習3年生（島本町）	
2月 5日	第三小学校休憩学習3年生（島本町）	
2月 6日	第一小学校休憩学習3年生（島本町）	
2月11日	大山崎かるさとガイドの会（大山崎町）	
2月16日	ボボの会	
2月21日	いきいき会（高槻市）	
2月26日	第二小学校休憩学習3年生（島本町）	7団体
3月 8日	平賀者組合長岡京支部 岩山あるきサークル ジャバニーズマイスキー発祥の地を訪ねて	
3月10日	天木バカラカンの会 今吉ぶき團（島本町）	
3月28日	高槻市郷土課	5団体

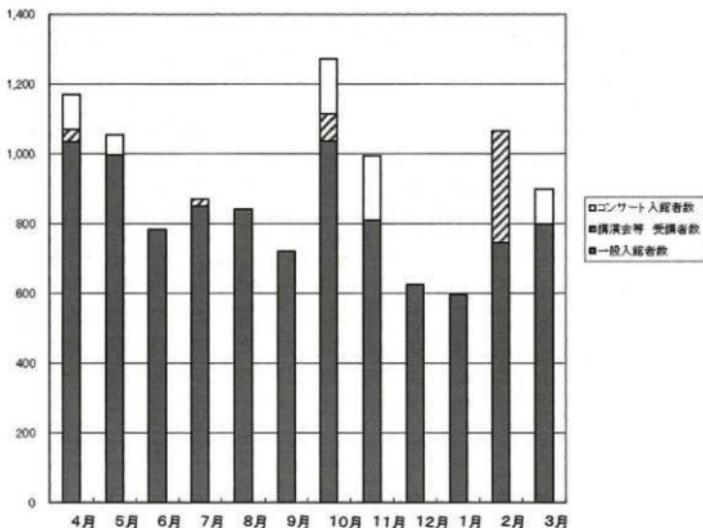
平成30年度（2018）		
4月10日	歴史文化資料「開館10周年」（～7/1）	
4月12日	資料館ボランティア定例会	
4月14日	講演会「島本町の豊かな文化財」（講師：吉原忠徳氏）	
4月15日	第76回コンサート「女声合唱団JyoJyoコンサート」	
4月22日	公募による寵物「鳥木音羽フェスティバル」	
4月26日	公募による発表「童謡クラブ・歌声さん」	
5月 6日	「舞踏10周年」記念 展示品解説・紹介	
5月10日	資料館ボランティア定例会	
5月12日	「舞踏10周年」記念 展示品解説・紹介	
5月15日	公募による発表「童謡クラブ」	
5月20日	公募による寵物「ガールズカウト大阪府第90団」	
5月27日	第76回コンサート「チャロとピアノのコンサートvol.3」	
6月 2日	公募による寵物「講談」島本町社会福祉協議会ボランティアセンター	
6月 7日	資料館ボランティア定例会	
6月26日	公募による発表「詩吟発表会」流心・青葉詩会	
6月28日	巡回講師	
6月30日	東洋大学災害科学国際研究所地震被害調査	
7月 1日	公募による寵物「日本ボーイスカウト島本第1団」	
7月 3日	公募による寵物「七夕納め」島本竹工房（～7/8）	
7月 4日	企画展「町内庭園調查成果連報展」（～8/5）	
7月18日	資料館ボランティア定例会	
7月20日	水無瀬離宮移築復元庭園保守・整備	
7月25日	体験講座「瓦アトリップ・マグネット作ってみよう！」（～7/26）	
8月17日	資料館新書架設置	
8月18日	公募による寵物「かぐや姫のタペ：竹のオブジェ展示」島本竹工房	
9月 6日	資料館外岡塙工事	
9月 8日	資料館ボランティア定例会	
10月 4日	資料館ボランティア定例会	
10月 8日	資料館外岡塙工事	
10月10日	秋の企画展「岩山神社の文化財～木殿と給馬～」（～12/2）	
10月14日	講演会「壁縞有形文化財岩山神社木殿～その特徴と壁縞の技術を探る～」（講師：池村茂夫氏）	
10月16日	公募による発表「童謡クラブ」	
10月19日	水無瀬離宮移築復元庭園保守・整備	
10月20日	体験講座「『ジグソーパズル』で始馬を学ぶ」	
10月21日	第77回コンサート「松永昌子ピアノで織る旅シリーズPartV～ドイツ3大B～」	
10月27日	公募による発表「童謡クラブ・歌声さん」	
10月28日	講演会「始馬を語る～考古学からみた始馬の歴史～」（講師：清水昭博氏）	
11月 3日	「木無瀬離宮 開達資料」実物展示（～11/4）	
11月 8日	資料館ボランティア定例会	
11月10日	第78回コンサート「～藤原崎庭ヨコダーリサイタル～ 楽器の名点、ヨコダーリサイタル/宮廷の華、チェンバロの音楽を聽く」	
11月18日	第79回コンサート「福井亮子ギィオリンリサイタルVOL.4 ～ロマンティックな名曲を揃めて～」	
12月 6日	島本の神事展「尺代・酉次火 神恩講」（～1/27）	
12月 6日	資料館ボランティア定例会	
1月10日	資料館ボランティア定例会	
1月30日	企画展「むかしのくらしと農家のしごと」（～3/3）	
3月 7日	資料館ボランティア定例会	
3月24日	第80回コンサート「原田真彦と吉久真子デュオリサイタル～暮りゆく四季への想い～」	

## 利用状況

平成 30 年度入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般入館者数	1,034	997	784	849	840	720	1,036	809	625	597	746	798	9,835
講演会等 受講者数	36	0	0	21	0	0	78	0	0	0	320	0	455
コンサート入館者数	100	58	0	0	0	0	158	185	0	0	0	100	601
総入館者数	1,170	1,055	784	870	840	720	1,272	994	625	597	1,066	898	10,891

入館者数(人)



## 寄贈・寄託

平成 30 年度は 1,351 点の寄贈をいただきました。

内容	点数	内容	点数
石臼、杵、甕、七輪台 等	13	足踏みミシン	1
算箇、勉強机、火鉢、磁器製枕	6	テープデッキ、黒電話 等	10
鞆、大八車	5	掛軸、パネル、鑑札 等	6
棹秤、綱秤、錘、斗桶、斗棒	8	書籍、冊子、古文書、記念誌	1,302
合計		1,351 点	

受入れ図書



## 町指定文化財一覧

島本町文化財保護条例が平成 20 年 7 月 1 日に施行されました。

島本町文化財保護審議会にて審議していただき、下記の文化財を指定しました。

平成 21 年度 島本町指定文化財 第 1 号	
名 称	水無瀬駒 関連資料
指 定 日	平成 21 年 4 月 14 日
所 有 者	水無瀬神宮（個人）
所 在 地	広瀬三丁目
種 類	有形文化財
種 別	美術工芸品（歴史資料）
員 数	小将棋（漆書・八十二才銘）一揃 合計 39 枚 飛車が欠落 中将棋（墨書・八十六才銘）一揃 合計 91 枚 歩兵が欠落 中将棋（漆書）残欠四枚 象戯図 一巻、附 象戯図 一巻
時 代	安土桃山時代
	
平成 22 年度 島本町指定文化財 第 2 号	
名 称	神像（伝 聖德太子七歳像）
指 定 日	平成 22 年 4 月 5 日
所 有 者	若山神社
所 在 地	大阪市立美術館 寄託
種 類	有形文化財
種 别	美術工芸品（彫刻）
員 数	1 枚
品質・形状	ヒノキ材・一木造り・彫眼・彩色仕上げ
法 量	像高 35.8cm
時 代	平安時代後期
	
平成 23 年度 島本町指定文化財 第 3 号	
名 称	宝城庵 薬師如来立像
指 定 日	平成 23 年 4 月 1 日
所 有 者	宝城庵
所 在 地	桜井三丁目
種 類	有形文化財
種 别	美術工芸品（彫刻）
員 数	1 枚
品質・形状	ヒノキ材・一木造り・彫眼・彩色仕上げ
法 量	像高 96.5cm
時 代	平安時代後期
	
平成 23 年度 島本町指定文化財 第 1 号追加	
名 称	將軍馬日記
指 定 日	平成 23 年 4 月 1 日
所 有 者	水無瀬神宮（個人）
所 在 地	広瀬三丁目
種 類	有形文化財
種 别	美術工芸品（歴史資料）
員 数	17 世紀初期
時 代	一冊
	

平成 24 年度 島本町指定文化財 第 4 号

名 称 : 勝幡寺 薬師如来立像  
 指 定 日 : 平成 24 年 4 月 1 日  
 所 有 者 : 勝幡寺  
 所 在 地 : 山崎四丁目  
 種 類 別 : 有形文化財  
 品 質・形 狀 : 美術工芸品 (彫刻)  
 品 質・形 狀 : 1 像  
 法 量 : ヒノキ材・割矧ぎ造りか・彫眼・漆箔仕上げ  
 時 代 : 像高 150.1cm  
 時 代 : 鎌倉時代



平成 26 年度 島本町指定文化財 第 5 号

名 称 : 勝幡寺 元三大師みくじ関係資料 一式  
 指 定 日 : 平成 26 年 4 月 1 日  
 所 有 者 : 勝幡寺  
 所 在 地 : 山崎四丁目  
 種 類 別 : 有形文化財  
 時 代 : 民俗 (有形民俗)  
 品 目 : 江戸時代 (一部推定を含む)  
 みくじ箋の版本、みくじ箱、  
 みくじ竹、みくじ算筒



平成 27 年度 島本町指定文化財 第 6 号

名 称 : 須恵器 大甕  
 指 定 日 : 平成 27 年 4 月 1 日  
 所 有 者 : 島本町教育委員会  
 所 在 地 : 桜井二丁目  
 種 類 別 : 有形文化財  
 品 質・形 狀 : 美術工芸品 (考古資料)  
 品 質・形 狀 : 1 口  
 法 量 : 口径 52.6 cm  
 器高 105.0 cm  
 最大胴部径 107.8 cm  
 (底部から 65.9 cm の地点)  
 容量 522.6ℓ  
 時 代 : 奈良時代末期から平安時代



平成 29 年度 島本町指定文化財 第 7 号

名 称 : 若山神社 絵馬  
 指 定 日 : 平成 30 年 1 月 15 日  
 所 有 者 : 若山神社  
 所 在 地 : 字広瀬 1497  
 種 類 別 : 有形文化財  
 時 代 : 民俗 (有形民俗)  
 時 代 : 江戸時代  
 品 数 : 1 面  
 呂馬図絵馬 1 一面  
 呂馬図絵馬 2 一面  
 猿猴乗馬図絵馬 一面  
 竹虎図絵馬 一面



曳馬図絵馬 1

島本町立歴史文化資料館 館報 第11号  
平成30年度版（2018）

発行 島本町教育委員会

〒618-8570

大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号

TEL 075-961-5151

発行日 令和元年12月

印刷 株式会社 西川印刷所

〒567-0828

大阪府茨木市舟木町18-30

TEL 072-634-7644

